

文部科学省 教員研修の高度化に資するモデル開発事業

教員のキャリア発達を促進する研修の成果・効果測定と評価システムの構築

－中堅・ベテラン教員の研修ニーズと自治体教員政策の多様性に着目して－

教員に求められる資質能力等にかかるセルフチェック・ツールの開発

【セルフチェック・ツールの概要とその活用例】

本件に関する問い合わせ先:

国立大学法人 兵庫教育大学
教員養成・研修高度化センター

住 所 : 〒673-1494

兵庫県加東市下久米 942-1

E-mail: kykk-create@ml.hyogo-u.ac.jp

TEL : 0975-44-2303

教員に求められる資質能力等にかかるセルフチェック・ツールの開発

中堅・ベテラン教員を対象とした研修に求められる効果とはいかなるものであるのか。そして、その効果はどのようにして評価されることが望ましいのか。

本調査研究では、関西・関東地区の5自治体（兵庫県・神戸市・西宮市・埼玉県さいたま市・千葉県松戸市）教育委員会のご協力をいただき、中堅・ベテラン教員を中心とした先生方に、さらなるキャリア・アップをいただくためのセルフチェック・ツールを作成しました。

＊セルフチェック・ツールの機能

このセルフチェック・ツールは、主に以下のような目的でご活用いただけることを目指しています。

- ①先生方にご自身の職務遂行上の強みや今後の目標をご確認いただく際の参考としていただく
- ②特定の研修を受講いただく先生方を対象として、その研修の効果を把握いただく目的において、研修の前後等にセルフチェックを行っていただく
- ③セルフチェックの結果をもとに、先生方と管理職・教育委員会の先生方との間でコミュニケーションを図っていただき、将来のキャリアを見据え、研修受講の計画等を立てる際に活かしていただく

＊セルフチェック・ツールの内容

セルフチェック・項目は、「学習指導・生徒指導等に関する資質能力」18項目と「教職に必要な素養」20項目から構成されており、これらは、文部科学省「公立の小学校等の校長及び教員としての資質の向上に関する指標の策定に関する指針に基づく教師に共通的に求められる資質の具体的内容」や、本研究にご協力いただいた自治体の策定する教員育成指標に規定されている内容をもとに作成したものです。

セルフチェックでは、これらの各項目について、6件法で自己評価を入力いただきます。

「学習指導・生徒指導等に関する資質能力」と「教職に必要な素養」のそれぞれについて、5自治体の公立小・中学校の先生方7,224名の調査回答結果に基づき、これらの資質能力や素養を構成する要素を分析しており（下記を参照ください）、セルフチェック・ツールに自己評価を入力いただくことにより、要素ごとの自己評価ポイントの算出が可能となります。

＊セルフチェック項目を構成する要素

【学習指導・生徒指導等に関する資質能力】

「個に対する理解と支援」（項目番号：11・12・13・14・15・17・18）

「関係性に対する理解と支援」（項目番号：7・8・9・10・16）

「指導技術」（項目番号：1・2・3・4・5・6）

【教職に必要な素養】

「協働的課題解決能力」（項目番号：8・9・10・11・12・13・14・15・20）

「自律的キャリア形成能力」（項目番号：5・16・17・18・19）

「省察力」（項目番号：1・2・3・4）

「同僚意識」（項目番号：6・7）

＊セルフチェック項目

【学習指導・生徒指導等に関する資質能力】

- ① 各教科等の特質を理解し、専門的知識を身に付けている
- ② 各教科等の教材研究に基づき、授業を実践できている
- ③ 学校の教育目標や年間指導計画の内容について、理解している
- ④ 学校の教育目標や年間指導計画に基づいて、授業を進めることができている
- ⑤ 児童生徒の学習面における達成状況について把握している
- ⑥ 児童生徒一人ひとりの実態に応じて、授業を工夫・改善することができている
- ⑦ 学級における児童生徒間の人間関係を把握している
- ⑧ 児童生徒間のよりよい人間関係の構築を促す学級づくりができている
- ⑨ 児童生徒一人ひとりの生活面における特性を把握している
- ⑩ 児童生徒一人ひとりの特性に応じて、集団への適応を支援できている
- ⑪ いじめや不登校など、生徒指導上の課題に対する支援の在り方について理解している
- ⑫ いじめや不登校など、生徒指導上の課題に対して、適切に対応できている
- ⑬ 児童生徒の社会的・職業的自立に向けた支援の在り方について理解している
- ⑭ 児童生徒がその特性を活かした生き方が実現できるよう、指導・支援できている
- ⑮ インクルーシブ教育の理念について理解している
- ⑯ 児童生徒がお互いを認め合う集団づくりができている
- ⑰ 特別な配慮や支援を必要とする児童生徒の特性を理解している
- ⑱ 児童生徒一人ひとりの教育的ニーズに応じて、きめ細やかな学習支援ができている

【教職に必要な素養】

- ① 職務上で得られた新たな気づきを、自らの教育活動の改善に活かしている
- ② 学校の教育活動を取り巻く状況に対応して、自らの教育活動の工夫・改善に努めている
- ③ 自分と異なる考えに接することは、自らの教育活動の改善に有効であると考えている
- ④ 職務上の経験を振り返り、自らの教育活動の工夫・改善に努めている
- ⑤ 生涯にわたり新しい知識や技術を学び続けたいと考えている
- ⑥ 児童生徒への指導等に関して、日頃から同僚とよく相談している
- ⑦ 児童生徒への指導等に関して、日頃から管理職とよく相談している
- ⑧ 学校教育目標との関連を考えながら、日頃の教育活動を行っている
- ⑨ 校内における自らの役割を認識した上で、校務分掌を適切に遂行できている
- ⑩ 自らの考えを周囲に提案し、組織的な課題解決をめざすことができている
- ⑪ 職場内での考えや意見の対立に直面した時は、良好な人間関係が維持できるよう働きかけ
ている
- ⑫ 会議や打ち合わせの場では、公正な意思決定が行われるように心掛けた発言をしている
- ⑬ 校種間の連続性を考慮して、自らの教育実践の内容を工夫している
- ⑭ 他機関・専門家との連携による課題解決が求められる事案において、必要な相談や協力体制を築くことができている
- ⑮ 保護者の教育に対する考え方を理解するために、積極的なコミュニケーションを図っている
- ⑯ 教員として、周囲の信頼の獲得に努めている
- ⑰ チャレンジし続けることが、教員としての力量向上には必要だと考えている
- ⑱ 児童生徒の成長を支えることにやりがいを感じている
- ⑲ 学校が抱える課題の解決に向けて、自ら積極的に取り組むことが重要だと考えている
- ⑳ 自らの培ってきた専門性を活かした仕事が出来ている

＊「全国学校教員平均値」との比較

要素ごとの自己評価ポイントについては、ご参考までに、「全国学校教員平均値」との比較を可能としています。

また、「全国学校教員平均値」のうち、ご自身のキャリア発達段階等にあわせて、比較したい教員の属性を選択し、その平均値と比較することもできます。

なお、「全国学校教員平均値」については、2023 年 12 月にオンライン調査会社を通じて行った全国の学校教員を対象にした Web 質問調査の結果によるものです。その回答者の属性については、学校設置者・学校の所在地・学校種・年齢・職階・勤務年数を除き、明らかにされていません。

「全国学校教員平均値」との比較は、各教員の職務遂行の態様の客観的な評価・診断を可能とするものではありませんので、あくまで、各教員によるセルフチェックの結果を振り返っていただく際の参考情報としてお役立ていただけますと幸いです。

＊Web における自己評価の入力画面

学校教員のためのセルフチェックツール

本ツールの説明書 (pdf)

◎ 「学習指導・生徒指導等に関する資質能力」を自己評価する

◎ 「教職に必要な素養」を自己評価する

このページでは、「学習指導・生徒指導等に関する資質能力」の自己評価を行い、2023年12月にオンライン調査会社を通じて行った全国の学校教員を対象にしたWeb質問調査の結果と比較することができます。

日頃のご自身の職務の状況を振り返り、以下の各項目について、もっとも当てはまる番号をチェックしてください。

「1. まったくそう思わない」
「2. そう思わない」
「3. あまりそう思わない」
「4. 少しそう思う」
「5. そう思う」
「6. とてもそう思う」

選択肢

#	項目	1	2	3	4	5	6
1	各教科等の特質を理解し、専門的知識を身に付けている						
2	各教科等の教材研究に基づき、授業を実践できている						
3	学校の教育目標や年間指導計画の内容について、理解している						
4	学校の教育目標や年間指導計画に基づいて、授業を進めることができている						
5	児童生徒の学習面における達成状況について把握している						
6	児童生徒一人ひとりの実態に応じて、授業を工夫・改善することができている						
7	学級における児童生徒間の人間関係を把握している						

結果

あなたの結果は下記の通りです。

オプション

☐ 比較対象を主幹教諭・指導教諭に限定する

#	あなた (括弧内は偏差値)	全国学校教員平均 ⁵⁾ (n=2,033)
個に対する 理解と支援 ¹⁾	4.57 (51.12)	4.49
関係性に対する 理解と支援 ²⁾	4.80 (53.16)	4.58
指導技術 ³⁾	4.67 (50.56)	4.63
総合 ⁴⁾	4.67 (51.69)	4.56

¹⁾個に対する理解と支援に関する項目のポイントを示す。
²⁾関係性に対する理解と支援に関する項目のポイントを示す。
³⁾指導技術に関する項目のポイントを示す。
⁴⁾全項目の総合ポイントを示す。

- ※ 自己評価結果が保存されることはありません。
- ※ 次の画面に進むと、入力内容が消去されますのでご注意ください。

【参考】教員に求められる資質能力等にかかるセルフチェックの活用例

本調査研究では、2023 年 12 月に実施した、5 自治体における中堅教員を対象とした研修において、試験的に、研修受講直前、直後、約 2 ヶ月経過時の計 3 回にわたってセルフチェックを行っていただきました。

研修受講後 1 ヶ月半頃を目途に、研修を受講いただいた先生方及びその管理職の先生方を対象に、教育委員会担当者及び大学教員による面談をさせていただき、受講直前・直後のセルフチェックの結果をご覧いただきながら、ご自身の職務遂行上の強みや課題意識の推移を確認いただくとともに、実務でのご経験に照らして、研修の効果を振り返っていただきました。

3 回にわたるセルフチェックの一部結果の推移は、下図のようになっています。約 2 ヶ月経過時における自己評価ポイントの上昇をもたらした要因については、さらなる検証が必要となりますが、研修の効果には、研修の受講直後に先生方ご本人によって認識されるばかりではなく、実務の上での手応えや変化をお感じになってはじめて認識されるものもあり得るということが言えるのではないかと思います。また、教育委員会や管理職の先生方等との面談を通して、研修を受講された先生方が、ご自身の職務に対する自信や意欲を高め、キャリアに対する見通しをもって職務に従事できるようになったことによる影響もあり得るものと推察され、対話に基づく研修の受講奨励の場面等において、こうしたセルフチェックの結果をもご活用いただけるものと考えられます。

研修受講者の「学習指導・生徒指導等に関する資質能力」にかかる自己評価ポイントの推移 (全国学校教員平均値との比較)

